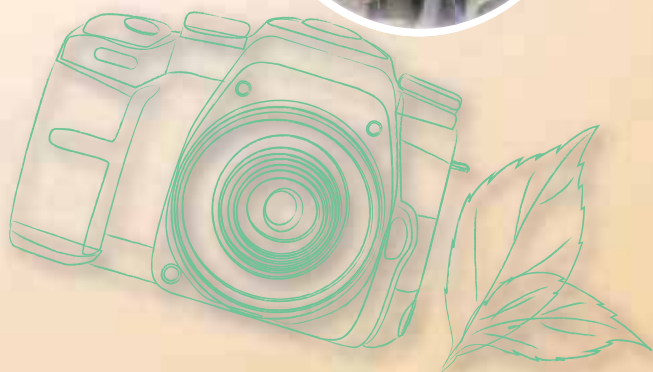




もり 森林の調査隊!! フォトコンテスト 入選作品集



主催：林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター

後援：近畿農政局／里地ネットワーク／朝日新聞社／毎日新聞大阪本社／NHK大阪放送局／産経新聞大阪本社／公益財団法人 森林文化協会／

全日本写真連盟／日本風景写真協会／公益社団法人全国高等学校文化連盟正会員団体 高等学校文化連盟全国写真専門部／京都伝統文化の森推進協議会／
公益社団法人 京都モデルフォレスト協会

局 長 挨 拶

近畿中国森林管理局長

前川 泰一郎



本年度の「森林の調査隊フォトコンテスト」を開催したところ、たくさんの皆様にお集まりいただきましてありがとうございます。

昨年までと違い、今年は最終審査会として「清水寺（^{きょうどう}経堂）」というすばらしい場所で開催することができました。

この、「清水寺（^{きょうどう}経堂）」という場所は「重要文化財」でなかなか普段使えないということで、場所を提供していただいた清水寺様には大変感謝を申し上げます。

今年のフォトコンテストは、若干昨年と違い趣向を変えています。特に今年は次世代を担う子供達に森林に親しんでいただくということで、小学校、中学校の部門を新たに設けてフォトコンテストの充実を図っています。

折角ですので、フォトコンテストのねらいを説明したいと思います。私ども近畿中国森林管理局は近畿、中国地方の森林、特に国有林を管理経営するのが仕事です。わたしたちが抱えている問題は林業の問題のみならず里山の問題があります。

戦後しばらく里山はどういう活用をしたかといいますと、まず薪炭林、薪です。昔話に「おじいさんが山に柴刈りに行きました」とあるように柴というのは、火力になって暖をとり、あるいは食事をする時に釜戸の火力として使われました。それから山でできた堆肥を田んぼに戻したりというように使われました。このように山というのはわれわれの生活にとってなくてはならないものだったのです。

ところが戦後、肥料は化学肥料に代わり、薪で暖をとることもほとんどなくなり、里山がある意味では見捨てられ、無視された状態が続きました。その結果どうなったかということと二つに分かれます。一つは里山が禿げ山化し一生懸命木を植えました。スギやヒノキが多いのですが、それが大きく育って過密状態になっている。管理が不十分で真っ暗になっているのが一つです。もう一つは放置されてその後どうなったかということ、近畿中国地方では自然に戻ってシイ、カシ、タブと言った常緑広葉樹の森に草木が生い茂り、見通しの悪いジャングルのような森となり、人が入り込めない状態になっている所もあります。

まさに里山は危機の状態に陥っていますが、私どもがフォトコンテストを開催することによって、森林は使い捨てではなく、皆様方と一緒に里山との良い関係をつくっていただきたい。例えば里山を適切に整備することによってレクリエーションの場として使ったり、散歩したり、いろんな形の活用を考えていただきたい、ふれあいの場として里山を活用していただくのが私どもの願いです。

今年は新しく小学校、中学校の部門を設け、お子さんも含め幅広い年代の方に里山を活用し、同時に日本の森林林業のことも考えていただきたいと思います。

一次審査を通過された方については、本日いろいろ発表の準備をしていただきましてありがとうございます。今回のフォトコンテストが皆様方と里山や森林を結びつける新たなスタートになればと思っています。よろしくお願い致します。

（※平成25年12月1日開催の最終審査会会場にて挨拶）

審査講評

◎青山 佳世 氏（フリーアナウンサー）



今年も素晴らしい応募写真を通して、応募者の皆さんが何を感じたのか、何を心に感じながら色々な取り組みをしているかを教えていただき、本当に貴重な機会だったと思います。

このような受賞結果になったのは、全体の写真バランスと作品に対する想いが賞に繋がったということで、皆さん素晴らしい作品ばかりだったと思います。

私は、毎回必ず申し上げているのですが、写真としては本当に素晴らしい作品なのですが、写真だけを見ていただけでは、皆さん達の言いたい作品に対する想いが伝わらなかったという残念な写真がいくつもありました。

皆さん達の想いが3枚の写真の中にどういう風に織り込んでいけば良いのかを、ぜひ次の機会には考えながら、シャッターを押していただけたらうれしいと思います。残念な作品となったものも沢山ありましたので、また次回の作品には素晴らしい結果が出るのではないかと考えています。

今回の応募者の中には、働く会社から大勢の応援団が来てくださいましたが、このように皆さんで競い合いながら自然の中に身を置き、そして里山のすばらしさや様々な課題を見つめながら写真に収めたり、あるいはいくつかの高校や学校でみんなで競い合い、またコメントのなかには、普段はあたりまえのように思ってきた里山の姿、そしてすばらしさを改めて私達に気づかせてくれたフォトコンテスト、主催者である近畿中国森林管理局が泣いて喜ぶようなコメント！まさにそのような目的でフォトコンテストを行っているんだということを噛みしめて、ぜひ来年も良い写真を撮っていただき、私達にいろんな感動を与えていただきたいと思います。

本当におめでとうございました。

◎久留飛 克明 氏（箕面公園昆虫館館長）



たくさんの作品を見せていただきましたが、どれもこれも優劣つけがたく賞の選考には激論を交わしていました。

自然を相手に写真を撮る時は、葉っぱが綺麗だなと思って次の日に行くと、もうその葉っぱのイメージが違ってたりします。

特にシャッターチャンスです。昔はフィルム式のカメラで気合いを入れて36枚の写真しかないと思って撮りましたが、今はカメラが良くデジカメで簡単にたくさんとれますが、なかなか良い写真が撮りにくい。そういう意味で、いつもポケットの中にカメラを入れて歩いていますが、生き物を相手にする時には、今撮りたいなという時にカメラがないということが沢山あります。

もう一つ気になっていたのが、風景の中で人が何をしているのかが気になり、顔を見た時にどんな顔をして仕事をしているのか、どんなことを思っているのかということがくみ取れたと思います。そういう意味で今回いろんな作品がありましたが、バランス良く本当に良い作品が選ばれたと思っています。

最後に私は昆虫館に勤務してまして、ぜひ大阪府箕面公園昆虫館にもお越しいただけたらと思っています。これからもよろしくお願いします。

◎久山 慶子 氏（フィールドソサイエティー事務局長）



どの作品にもそれぞれの魅力があり、ギリギリまで審査をさせていただき、なかなか決められないほどでした。入賞されなかった方も十分に素晴らしい作品ばかりだったことを、まず伝えさせていただきます。

私は、ここから北へ連なる東山の、善気山の麓にある「法然院森のセンター」に居りまして、大文字山から法然院のお寺の森にかけてをフィールドとして、自然観察会や森の整備などを行っています。

子供達と一緒に活動していると、シャッターチャンス、写真に撮りたいと感じる場面にはたくさん出会うのですが、作品にできるような質の高いものは、なかなか撮ることができません。みなさんが発表された写真の影にも、作品にはできなかったけれど、このときは楽しかったなあ、あの景色は綺麗だったなあ、というような思い出が、何枚もの写真とともに隠れているのだろーうと思います。

これからも写真を撮ることを一つのきっかけとして、もっともっと森の中に出かけてください。森のいろんな生き物とであう、それから、人が森と一緒に暮らしてきたことを思い出して森の存在をもう一度見つめ直す、そして、大切な森との付き合い方を考える、そんなきっかけにしていだけたらうれしいと感じます。

人間の目には限界があり、小さなものは見えませんし、暗くなれば、夜行性の生き物が見えるものも、人間の目には見えません。こんなに限界のある人間の目ですが、人間の目の素晴らしいところは、今日、みなさんの写真から感じられたように、そこにあった雰囲気や思い出を焼き付ける力があるところです。

生き物を撮った写真も素敵でした。「見る」ということには2通りあるとよく言われます。ただ単純に見るということと、しっかり見る・観察するということです。観察するという言葉は日本語にするのが難しく、「愛情をもって見る」と訳すのがいいのではないかと聞いたことがあります。

思い出を焼き付ける、生き物を観察する、どちらも「心を注いで見る」ということかもしれません。写真を撮ることは、もしかしたら、そんな心の目を開く一つの方法になるかもしれないと思います。

今日は、写真とともにお話もきかせていただき、ありがとうございました。

最終審査の様子



◎只木 良也 氏（農学博士・京都府立林業大学校長）



私も写真が大好きです。お暇の折にパソコンで私のホームページ「森林雑学研究室」を開いて見てください。私の写真がたくさん載っています。

このホームページを来週ご覧頂ければ、今日の「フォトコンテスト」の記事が載っているはずです。審査員の皆さんよかったと褒めています。私も褒めておきます。しかし、次の点に注意をして頂き、来年も多くの作品を応募して欲しいと思います。注意点は何かというと「3枚セット」であるということ。「3枚」でストーリー性が出てくるのがポイントです。1枚の写真がいくら綺麗でもそれは賞の対象にならない。それが一つです。2番目は、主催者が誰かということを考えてください。主催者は森林管理局なのです。だから森林の色の薄い写真はあまり好ましくない。その辺を注意してほしい。

文明という言葉があります。その語源をたどるとシヴィライゼーション、ラテン語でシヴィルというのが頭についている。都市化するという意味だそうです。本来、都市化することが文明なのです。都市化しない所、つまり農村や山村は未開地として残る。明治以来、日本ではその精神でシビライゼーションが進んだのです。そのおかげで農山村は置き去り、疲弊しました。疲弊した中でも、昔は農と林はくっついていました。おじいさんは山へ柴刈りに、おばあさんは川へ洗濯に。灰をまいて枯れ木に花を咲かせましょう。これは、木を燃やした灰をまいたら肥料になったという証拠なのです。そのような繋がりをプツリと打ち切ったのが昭和30年頃からの石油燃料・化学肥料でした。林は林、農は農、今限界にきています。私達はその再結合をめざしたいと思っています。森林管理局の力、協賛してくれる皆さん方の力を生かしたいと思っていますのでよろしくお願いしたい。

日本はこれだけ開発が進んだと見えても、まだ国土の三分の二の66%が森林なのです。これをどう捉えますか。時代遅れの後進国だと捉えますか。そうではなく、これだけ森林を残し、文明も発達させ、素晴らしい国だというプライドをもってほしい。森林は我々にいろいろなものを与えてくれます。その恩恵を受けて我々日本人は生活している。この大切な森林をずっと絶えることなく、後の世に伝えていきたい。私達の願いです。

今、世界的に環境問題が非常に盛んです。環境問題を森林という自然の産物、完成に近い自然である森林を軸足において環境問題を考えられるのは、先進国では日本しかないのです。しかし世の中の人々は森林を大事にしない人が多い。日本人にとって森林は空気のような存在なのです。普段はあって当たり前、只で使って平気なのです。それが無くなったとしたら…、というもう一つの意味も考えてほしいと思います。

来年も期待しています。



最終審査会・表彰式

- 開催日：平成25年12月1日(日)
- 開催場所：京都市東山区清水寺「きょうどう経堂」



清水寺（清水の舞台）



清水寺（経堂）

会場にて最終審査対象の30作品を展示



前川局長の開会挨拶



最終審査会場の様子



出品者によるメッセージの発表



表彰式



平成 25 年度
「森林の調査隊 !! フォトコンテスト」 受賞作品一覧



【森林の動植物（植物、昆虫、動物）部門】

「豊かな自然の生き物たち」

山下 泉マリー（滋賀県大津市）



【森林と人との関わり部門】

「ミッション！ SATOYAMA パート 2 『里山は心の中にあるんだよ』」

須賀 修平 中川 卓 水野 弥生（大阪府大阪市）



【森林と人との関わり部門】

「森の笑（わら）かし屋さん」

河合 智佳子（愛知県豊田市）



【森林と人との関わり部門】

「青春時代の 1 ページ 『O・Mo・I・De』」

野島 丈裕（大阪府大阪市）

【森林と人との関わり部門】

「森とゆかいな仲間たち」

前田 純二 大谷 純（大阪府枚方市）

【森林と人との関わり部門】

「春が来た！！」

難波 広樹（広島県庄原市）

【森林と人との関わり部門】

「守るべきいのち」

服部 美沙（広島県庄原市）

【森林と人との関わり部門】

「森林（もり）は大きな図書館」

湯川 喜義（長野県木曽郡）

【森林の動植物（植物、昆虫、動物）部門】

「背中に目をつけている虫、他」

藤井 寧々（大阪府豊能郡）

【森林の動植物（植物、昆虫、動物）部門】

「めぐる命」

伊東 里紗（京都府京都市）



【森林の動植物（植物・昆虫・動物）部門】

豊かな自然の生き物たち

山下 泉マリー（滋賀県大津市）

①



②



③



〔メッセージ〕

私は、よく家族で森にハイキングに行きます。その時に、私は誕生日に買ってもらったカメラをいつも持って行き、おもしろい生き物やきれいな風景を見つけると、写真を撮たくさん撮ります。

今回応募した作品のうちの二つは、家族旅行の時に撮ったものです。

カエルの写真は富山県の合掌造りの集落周辺の池で撮りました。そこは辺り一面カエルの鳴き声でいっぱい、その鳴き声もカメラにおさめたいと思ったので、カエルが頬をふくました瞬間をじーっと待って、やっと撮ることができました。

オレンジのチョウの写真は、長野県の戸隠神社の近くで撮りました。そのチョウは私が写真を撮ろうとすると、すぐ逃げてしまうので、気づかれないようにそーっと撮らないといけませんでした。戸隠へは夏休みにキャンプに行ったのですが、とても暑かった滋賀県から来た私たちにとって、長野県はとても涼しくて、朝晩は寒いくらいでした。このチョウは滋賀県でも何回か見たことがあったと思いますが、長野県で見ると空気がすがすがしいので、色が鮮やかに見えました。

最後に二匹のアゲハチョウの写真は、自宅の庭で撮ったものです。チョウが交尾している姿は、テレビや図鑑でしか見たことがなかったので、あわててカメラを持ってきて撮りました。

森へ行くと、いろいろなおもしろい発見があって、とても楽しいです。これからもたくさんの生き物が住めるように、森を大切にしていきたいです。

●撮影場所

- ①富山県南砺市 五箇山
- ②長野県長野市 戸隠
- ③滋賀県大津市

●カメラ：Panasonic Lumix DMCTZ30



【森林と人との関わり部門】

ミッション！ SATOYAMA パート 2 「里山は心の中にあるんだよ」

須賀 修平 中川 卓 水野 弥生（大阪府大阪市）

①



〔メッセージ〕

秋も深まりつつある日のこと、当社にもやって来ました「里山旋風！」日頃から森林を愛する社長の一声は、もう立派な“お仕事？”

去年に引き続いてミッション里山のキックオフです。大阪の中心にある私達の会社。

さあ、少一し足を延ばしてみましょう。

①足を延ばしたその先は、会社から1時間ほどの所にある大阪府と奈良県の境目、『金剛山』です。写真は展望台付近で見つけた、野鳥の巣箱。設置したのは地元の観察会の方々とのことです。巣箱の住人はどんな鳥なんだろう？きっと、おいしそうに秋の実りをいっぱいんでいるのでしょうね。

展望台からの景色は鮮やかな緑が目に入ります。『麓はどうなっているんだろうか？』・・・調査隊の鼓動は高まります。

②緑の正体は『大阪府千早赤阪村』の田園風景。緩やかな坂道を登るとスケッチブックを持った近くにお住まいの『おかあさん』に出会いました。

四季折々の表情を見せるこの棚田に思いを込めて描いてらっしゃるとの事。暖かく、優しい後ろ姿です。

③眼下に広がるのは日本の棚田百選にも選定されている『下赤坂の棚田』です。

コスモスや“はさかけ”された稲穂が一枚の絵の様に広がります。気持ちのよい風が吹き、調査隊はいつまでも眺めていたい思いにふけりました。

いつもいる場所から、そう遠くない所にも“里山”はありました。

社長！『心の中に』とはそういうことですね！里山に住む人々の生活や保全する人々の息遣いが感じられたような、そんな、今回のミッションでした。

●撮影場所

①大阪府南河内郡千早赤阪村 金剛山

②③大阪府南河内郡千早赤阪村

●カメラ：

①②Nikon D3100

③SONY DSC-WX200

②



③





【森林と人との関わり部門】

森の笑(わら)かし屋さん

河合 智佳子 (愛知県豊田市)

①



②



③



〔メッセージ〕

おや？木に何かいたのでしょうか？皆のぞきこんでいます。ありふれた何のヘンテツもない木だと思っけていても、実はユニークな「森の笑かし屋さん」がたくさんかくれています。

どの木にも模様、傷、こぶなどがありますが、まったく同じ木なんて一つもない。こんな風に視点を変えて木を“観”てみると、「ただの木」が「おもしろい木」へと大変身！

撮影した場所は「トヨタの森」という、小学生の自然体験学習を主に行っているところです。写真に写っている方々は「21世紀の里山文化体験コース」という大人向けのイベントの参加者で、テーマは「はじめよう、森が身近にあるくらし」でした。

そこで私たちが普段小学生にやっているように、参加者に森の笑かし屋さんを探してもらったところ、見つけた瞬間、思わずクスッと笑顔がこぼれました。私は、この瞬間の顔がすごく好きです。

この時私は、自分で笑かし屋さんを見つけたときの笑顔は子どもも大人も変わらないんだなと気づきました。これが木や森のチカラなのではないでしょうか。

森林浴をするとフィトンチッドによってストレスホルモンが減少……なあって難しいことを知らなくても、木ひとつ！自由な想像力ひとつ！だけで、誰もが笑顔になって癒やされる。そんな自然とのふれあいのほうが、より身近に親しみやすく感じませんか。

“笑かし屋さん”の住む木があなたのすぐ近くにあるかもしれませんよ。

さあ、探しに行ってみよう！

●撮影場所

①②③愛知県豊田市岩倉町 トヨタの森

●カメラ

①②Canon EOS KissX5

③Canon EOS 7D

①



②



③



〔メッセージ〕

これからお話するのは、昔の話です。昔と言ってもほんの30年ほどのお話です。

40も半ばの男が少年時代に過ごした思い出深い神社がある裏山の1ページ。少年時代仲間といつも駆け回り、夢を語り、笑い、泣き、喧嘩をした思い出の場所。

写真1：学校の行き帰り、遊びに行くとき帰るとき、毎日の生活に欠かせない裏山の神社の階段。昔は本当の山道だったけれど、今ではきれいに舗装されている。自然を残しながら生活に密着した感じを…。

写真2：仲間と作った秘密基地。木々の間から町が一望できる僕たちの特等席。大体の場所は覚えているつもりだったけれど、この辺りだったかな。シャッターを切ると自分の影が。なんだかあのときの自分に戻ったような…楽しかったあのころを思い出す。ふと耳にした小鳥たちのさえずりが、「何して遊ぶ」とあの頃のあいつらの声に聞こえたような。

写真3：ここは裏山の神社の裏手にある「神さんの木」なぜか恋の告白はこの場所でするのが僕たちのルールだった。僕ももちろんここで告白し、そして見事に振られた。青春の甘酸っぱい思い出がここにある。ここは昔と変わらず行きかう人たちを見守り、神様だけに恋のキューピット（神社ですけど）をしているのかな。

今度は僕の子ども達が告白するのもかも、その時はキューピットが微笑んであげてほしいな。

青春時代に過ごした思い出の場所を30年ぶりに訪れて、一人タイムスリップしたような気分を味わいながら思う。コンクリートに囲まれた生活の中で心が砂漠化している現代社会の中で、この裏山は町の中にぼつんと残るオアシスだ！！この限り少ない自然を大切に生活の一部としているこの町の人たちが少し羨ましく、また彼らに感謝の気持ちが湧き出ていました。

●撮影場所

①②③大阪府枚方市枚方上之町 意賀美神社

●カメラ：Panasonic DMC-FX30

①



②



③



【森林と人との関わり部門】



森とゆかいな仲間たち

前田 純二 大谷 純

(大阪府枚方市)

〔メッセージ〕

私たち理想の森プロジェクトは2003年から京都市北区の雲ヶ畑をフィールドに森づくりをしています。雲ヶ畑は京都市内から車で30分鴨川の源流のある山の豊かな集落です。かつては、林業が盛んな薪炭生産地でした。

その雲ヶ畑を拠点として、広葉樹の森づくりや雲ヶ畑の人達と一緒に活動をしている団体です。参加者は社会人や親子連れ、木工作家、学生、省庁職員、市職員、NPO法人、材木屋、雑貨屋さん、リタイヤしたお父さんまで様々、月に二度ほど山へ入り‘山仕事’をしています。

春は植林、夏は下草刈、秋は間伐、冬は薪割りなど。それぞれのペースでできる作業を見つけながら、雲ヶ畑の山や人と関わっています。

写真は秋の活動、餅つき&薪割りから選択しています。大人も子供も薪割りに餅つきが初体験の方が多く、ワクワク・ドキドキ感が一杯のようでした。

街での日常生活では使う事が少ないノコギリ・斧。どちらも里山で生活する上では欠かせない道具を使用しての薪割り体験。最初は山主さんの全体指導からはいり、次にスタッフが助手をし、次第に大人も子供も一人での作業。慣れてくると、いかに綺麗に薪を割れるか、どちらが丸太を早く伐れるかなどを競い合う場面など…。

山に街の人が来てくれるのが楽しみ！と笑顔でこたえる山主さん。街の人も貴重な里山で暮らす人の体験が出来て笑顔。大人が作業している合間も、子供たちはそれぞれに、虫を探したり木の実を拾ったり、川で魚を捕ったり「食べられるかな？」と聞きにきたり。自然豊かな里山のなかで街にはない、豊かな時間を大人も子供もそれぞれに楽しみ過ごしている雲ヶ畑の森とゆかいな仲間たちです。

●撮影場所

①②③京都市北区雲ヶ畑

●カメラ：Canon EOS KissX4



【森林と人との関わり部門】

春が来た！！

難波 広樹（広島県庄原市）

①



②



③



〔メッセージ〕

この三枚の写真は、広島県庄原市比和町吾妻山で撮った写真です。全てを魚眼レンズで撮りました。そして、手前のものを大きく撮り、バックを広く撮り、迫力のある写真にしました。見て分かるように、全ての写真に空を入れました。

やはり、天気がいい日に撮りたいので、天気予報には、最善の注意を払いました。

上の写真はロウアングルで撮りました。多彩なアングルで多くのものを沢山撮りました。

その中でも、一番下の写真は木の幹ぎりぎりまで引っ付いて撮りました。魚眼レンズで手前の木の幹を強調しました。そして、その写真の左下に太陽をワンポイントで入れ、光も強調してます。

真ん中の写真は、池に反射して、空が写っています。この被写体は見つけた瞬間、「これは写真になる。」と確信しました。

その結果とても美しい写真へと完成しました。空だけでなく向こうの山も写っているのも僕自身、気に入ってます。全ての写真が春らしくあり、美しく撮れました。真ん中の写真を撮るとき、池に近寄ると、沢山の鯉が寄ってきて口をパクパクしていて、とてもかわいらしい様子でした。まるで、僕たちを“おもてなし”しているかのようでした。人への警戒心はなさそうに見えました。この森は人とよく調和していました。

僕なりに、春らしさが伝わる写真になり、とてもこの組み写真を気に入ってます。

●撮影場所

①②③広島県庄原市比和町 吾妻山

●カメラ：SONY α65

①



【森林と人との関わり部門】

守るべきいのち

服部 美沙

(広島県庄原市)

〔メッセージ〕

この写真を撮りに山に登っている途中、私は顧問の先生にこんな質問をされた。

「里山とはなにか分かりますか？」

“里山”という聞きなれない言葉に、私は正しい答えを出すことができなかった。そんな私をみて、先生はこう答えた。

「里山とは、人と森の動物とが共存している場所のことです。今では少なくなっていました。里山という存在が少なくなったために、森林の動物が道路で死んでいるのを見ることも多くなりましたね。」

私はこの言葉をきいて、なんともいえない気持ちを覚えた。環境問題のひとつである“森林破壊”という言葉は、今では聞き慣れた言葉になってしまった。そういった私たちの勝手に、住む場所を、命を、奪われている生き物がいる。その事実を初めて実感した。森林に住んでいる生き物は、動物だけではない。植物や昆虫もである。そういった多くの生命を私たちは今、少しずつ奪っている。なんとかしたいと思った。

私が今できることは何か。そう考えたとき、今この美しい森林を写真に収めることだと思った。私の写真をみて、綺麗な森林があることを、そこに住む生き物がいることを、知ってほしい。そして一人でも多く、それを守りたいと思う人が増えて欲しい。森林を撮ることに明確な目的を持っていなかった私が、確かな目的を持つことができた瞬間だった。

そうしてできた作品が、この3枚の写真です。少しでも多くの人にこの思いが伝わればよいと思います。

●撮影場所

①②③広島県庄原市濁川町 日野滝

●カメラ：Nikon D20

②



③





【森林と人との関わり部門】

森林（もり）は大きな図書館

湯川 喜義

（長野県木曽郡）

①



〔メッセージ〕

“森林は大きな図書館”

子どもたちと森林の中を散策する時に、私は必ずこう思います。

森林の中をゆっくり歩いてみると、出発の頃には面倒くさそうな表情をしていた子ども、疲れるから行きたくないと言っていた子ども、必ず何かひとつでも自分の興味があるものを見つけます。

きれいな色の葉っぱ。

変わった形の木の子。

見たこともない昆虫。

先生から教えてもらった植物の不思議な話。

②



森林の中にあるものすべてに興味をもつ必要はありません。自分で森林を歩いて、見て、聴いて、触って、感じて・・・

その中で、たとえひとつでも「おもしろそう」と、自分で手に取ることが大切なのです。

森林が“学校”ではなく“図書館”と思う理由は、子どもたちが森林の中から自分の好きなもの（好きな本）を自分で選ぶことができる場所だからです。今日はどの子どもがどんな本を借りていくのでしょうか。子どもたちが、自分の好きな本を広い森林の中で見つけた瞬間。その瞬間を見ることが、私はとても楽しみです。

森林の中には、まだまだたくさんのおもしろいものがあります。今日手に見つけたもの（本）を、家で考え（読んで）、またこの森林に返しにきてほしいと思います。

きっと、その時またおもしろい本が見つかるはずです。

③



●撮影場所

①②③長野県木曽郡木祖村 水木沢天然林

●カメラ：

①Nikon COOLPIX P50

②Nikon D70 ③Nikon COOLPIX S8000



【森林の動植物（植物・昆虫・動物）部門】

背中に目をつけている虫、他

藤井 寧々（大阪府豊能郡）

①



〔メッセージ〕

今年の夏休みに、小学3年と5才の孫が能勢の我が家に遊びに来てくれた時に見つけた虫たちです。

一庫公園でも思い切り楽しんで東京に帰っていきました。私達老夫婦にとっても、とても楽しい思い出の夏でした。

この昆虫たちと出逢った記念にコンテストに応募したいと思いました。

より大切な思い出にしたいと思います。

（藤井 玲子）

②



③



●撮影場所

①②③大阪府豊能郡能勢町

●カメラ：Nikon COOLPIX

①



②



③



〔メッセージ〕

私は「めぐる命」というタイトルで写真を撮りました。すべて夏の暑い日に撮った写真です。

1枚目の写真は、田畑の近くの木がとても多く生えた場所で撮った写真です。この写真は見ての通り、折れた木の中から芽が新しく生えています。私は、こんなにきれいに新しい命が芽生えているのをあまり見たことがなかったので、新しい命を感じてとても感動しました。

2枚目の写真は、阿弥陀寺というお寺の裏山で撮った写真です。ここは、真夏の暑い昼にも関わらず、とても涼しいところです。

このキノコは、こけの中に一つぽつんと生えていて、周りに同じ種類のキノコは一つもありませんでした。私は、キノコががんばって生長しているところを撮りたいと思い、できるだけキノコと同じくらいらしい目線から撮りました。

3枚目の写真は、2枚目の写真と同じ場所で撮りました。セミのぬけがらは、夏はあたり前の様に見えます。しかし、その一つ一つが新しく旅立った命です。このようなことを私は改めて思い、この写真を撮りました。

今回私は、「命のめぐり」を写真で表しました。1枚目が「誕生」、2枚目が「生長」、3枚目が「旅立ち」です。このデジカメ選手権は私にとって、自分の身の周りの気づきそうで気づかない自然の生長や美しさを改めて教えてくれるものだと思っています。今回は、動植物の命のめぐりを見て感じる事ができたので、これからも、自分の身の周りの自然への視野を広げていきたいと思いました。

●撮影場所

- ①京都府京都市左京区大原の田畑近くの森
- ②③京都府京都市左京区大原 阿弥陀寺の裏山

●カメラ：Canon PowerShot A-200IS



池の上の
モリアオガエル物語

宮本 罔宏 宮本 京子
(広島県神石郡)



2013 しおんじ山の活動

竹田 光廣
(大阪府箕面市)



守るべきもの

川部 由美子
(大阪府箕面市)



匠の技（磨き丸太・本仕込み）

外山 武比古
(東京都練馬区)



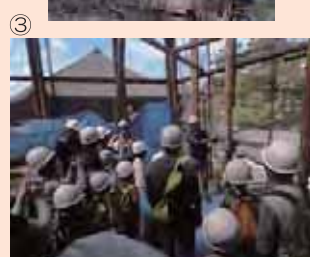
山仕事三昧（森林の保育）

磯部 彰 磯部 春美 井上 宜美
(滋賀県大津市)



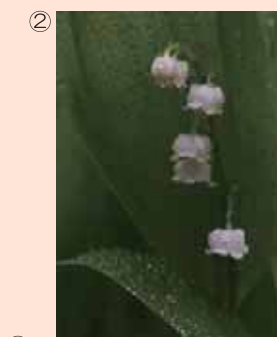
これぞ職人技！ 桧皮剥ぎ実演

永野 友紀子
(京都府京都市)



潤い

松本 涼太
(広島県庄原市)





小学生の未来の森づくり

渡邊 大樹
(三重県多気郡)

①



②



③



森からの恵み

勝部 フミノ
(岡山県高梁市)

①



②



③



森林の水辺にて

立藤 美加
(岡山県高梁市)

①



②



③



心を宿して

中山 千尋
(滋賀県近江八幡市)

①



②



③



森林と文化と信仰について

高橋 肇 今永 直子
(茨城県日立市)

①



②



③



森林（もり）のパワー
∞（無限大）

柳川 浩司
(長野県木曽郡)

①



②



③





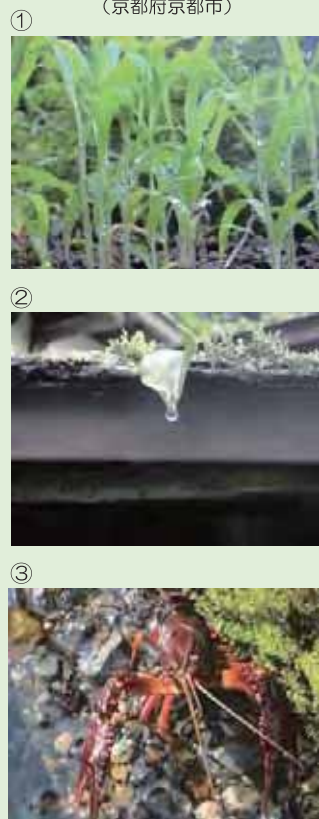
大原の森で

中林 香穂
(京都府京都市)



雨上がりの小さな瞬間

安井 有希
(京都府京都市)



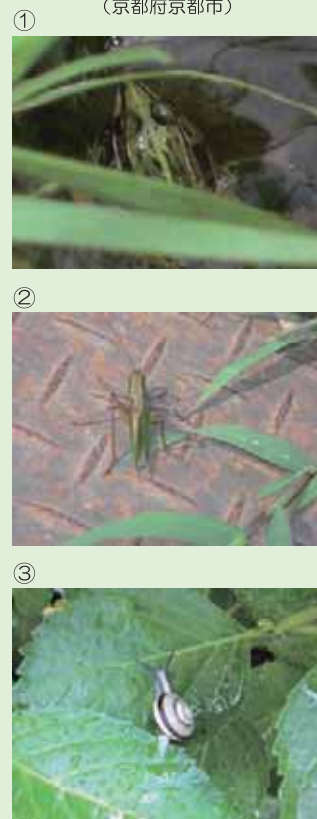
夏から秋へ

後藤 未沙 山本 莉帆 山本 友貴
(京都府京都市)



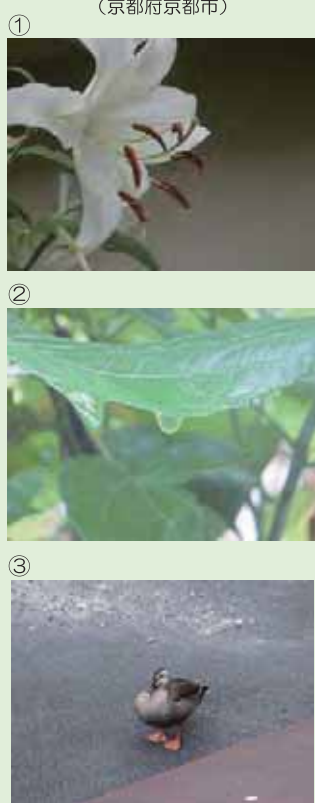
散歩中の生き物たち

下田 萌生
(京都府京都市)



生きる力

尾崎 明日香
(京都府京都市)



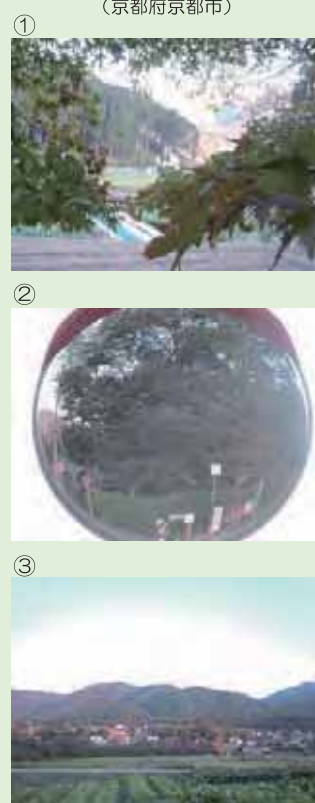
セミとカエルと明ける朝

辻 英介
(京都府京都市)



大原の素顔

岸下 周平 青山 颯馬 林 里音
(京都府京都市)



平成25年度「森林の調査隊!!フォトコンテスト」受賞作品の展示



- 場所：近畿中国森林管理局 1F 森林のギャラリー
(大阪市北区天満橋一丁目8-75)
- 期間：平成26年1月7日～2月28日



- 場所：近畿農政局 消費者の部屋
(京都市上京区西洞院通下長者町下る)
- 期間：平成26年1月16日～1月31日



- 場所：京都中央郵便局ATMコーナー
(JR京都駅烏丸口西側)
- 期間：平成26年2月17日～2月27日



- 場所：独立行政法人 森林総合研究所 関西支所
(京都市伏見区桃山町)
- 期間：平成26年3月1日～3月31日



平成26年度「森林の調査隊!!フォトコンテスト」 開催予定

平成26年度についても、引き続き「フォトコンテスト」を開催する予定ですので、ご興味のある方は、作品のご応募をおまちしています。

応募の開始については、5月頃を予定していますので、近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センターのホームページをご覧ください。



問い合わせ先

〒530-0042 大阪府大阪市北区天満橋1丁目8番75号

T E L 06-6881-3539

F A X 06-6881-2055

ホームページ

http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/

箕面森林ふれあい推進センター



平成25年度「森林の調査隊!!フォトコンテスト」

編集・発行：林野庁 近畿中国森林管理局 箕面森林ふれあい推進センター

〒530-0042 大阪市北区天満橋1丁目8番75号 近畿中国森林管理局内

TEL:06-6881-3539

FAX:06-6881-2055

ホームページ http://www.rinya.maff.go.jp/kinki/minoo_fc/